

2009年度(2010年3月期) 中間期(第2四半期) 決算説明会

2009年10月29日

セイコーエプソン株式会社

© Copyright Seiko Epson Corporation 2008



■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競争、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

「その他の事業」セグメントに含まれる「胎内育成事業」の一部変更について

- 将来の事業化を目指していた、「その他の事業」セグメントに含まれる「胎内育成事業」の一部を、3月に発表したデバイス事業の構造改革の方向性に沿って全社の基礎研究開発へと役割を変更
- それにともない、2009年度以降のセグメント損益の開示値を変更
- 2009年度予想の説明において、前年度を比較対象とする場合は、2008年度のセグメント損益もあわせて補正

2

- - 2009年度から、「その他の事業」セグメントに含まれる胎内育成事業の一部につき、変更。
 - 将来の事業化を目指し、「その他の事業」セグメントに含めていた「胎内育成事業」の一部につき、3月に発表したデバイス事業の構造改革の方向性に沿い、全社の基礎研究開発へと方針・役割を変更。
 - これは、各セグメントで負担すべき性質の費用のため、2009年度以降のセグメントの損益開示値を変更。
 - 2009年度の実績および予想を、前年度である2008年度と比較する際、2008年度のセグメントの損益についても同様の補正。

1. 概要ご説明

2. 詳細ご説明

決算ハイライト(中間決算)



(億円)	2008年度		2009年度				増減額 増減率	
	実績	%	8/26予想	%	実績	%	前年 同期比	8/26 予想比
売上高	6,157	-	4,690	-	4,496	-	-1,661 -27.0%	-193 -4.1%
営業利益	280	4.6%	△180	-3.8%	△93	-2.1%	-373 -	+86 -
経常利益	274	4.5%	△190	-4.1%	△144	-3.2%	-419 -	+45 -
税引前利益	204	3.3%	△235	-5.0%	△203	-4.5%	-408 -	+31 -
純利益	117	1.9%	△255	-5.4%	△291	-6.5%	-409 -	-36 -
EPS	59.69 円		△128.36 円		△146.92 円			
換 算 レ ー ト	USD	106.11 円	96.00 円		95.49 円			
	EUR	162.68 円	129.00 円		133.15 円			

4



- 最初に中間決算の概要について。
- 売上高は、前年同期比 27.0%減収の 4,496億円、
営業利益は、373億円減益の 93億円の損失、
経常利益は 419億円減益の 144億円の損失、
純利益は、 409億円減益の 291億円の損失。
- 8月26日の前回予想に対して。
売上高は、届かなかったものの営業利益、経常利益は予想を上回った。

決算ハイライト(第2四半期決算)▶前年同期比



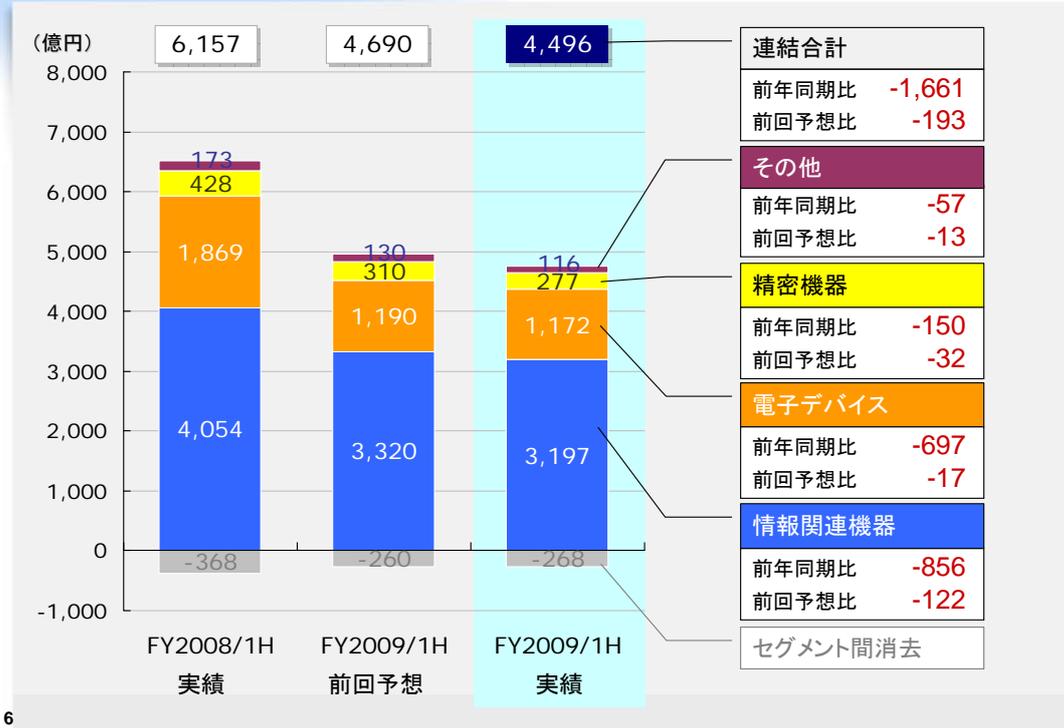
(億円)	2008年度		2009年度		増減	
	2Q実績	%	2Q実績	%	増減額	増減率
売上高	3,115	-	2,362	-	-752	-24.2%
営業利益	56	1.8%	31	1.3%	-24	-44.3%
経常利益	55	1.8%	6	0.3%	-48	-88.6%
税引前利益	47	1.5%	△35	-1.5%	-83	-
四半期純利益	14	0.5%	△68	-2.9%	-82	-
EPS	7.23 円		△34.14 円			
換算 レート	USD	107.66円	93.65円			
	EUR	161.93円	133.73円			

5



- 2009年度 第2四半期の実績について。
- 売上高は、前年同期比 24.2%減収の 2,362億円。
- 利益面では、前年同期と比べ、減益だが、
営業利益は 前年の第3四半期以来の 31億円の黒字、
経常利益は 6億円の黒字。

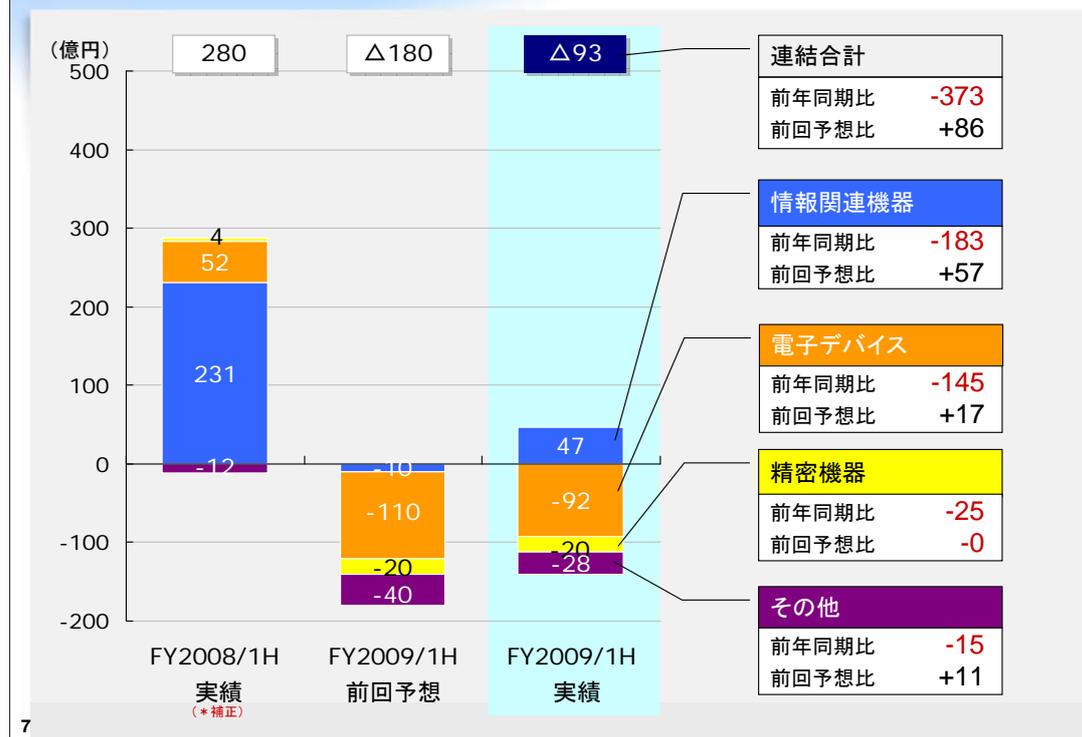
中間期決算概要売上高比較▶事業セグメント別



▶ 当中間期の 事業セグメント別売上高について。

- ▶ 情報関連機器は、前年同期比では 856億円の減収。
前回予想との比較では、122億円下回った。
プロジェクターがビジネス向けを中心に数量が未達となったことなどによる。
- ▶ 電子デバイスは、前年同期比では 697億円の減収。
前回予想との比較では、17億円 下回った。
水晶事業や、半導体事業は予想を上回ったが、
中・小型液晶ディスプレイが未達となったことによる。

中間期決算概要営業利益比較▶事業セグメント別



- ▶ 当中間期の 事業セグメント別営業利益について。
- ▶ 情報関連機器は、前年同期比 183億円の減益。
前回予想との比較では、プリンター事業、特にインクジェットプリンターにおいて、費用削減による収益性の改善などにより、57億円上回った。
- ▶ 電子デバイスは、前年同期比 145億円の減益。
前回予想との比較では、固定費削減などの施策への取り組み効果と、半導体事業における稼働率の改善などにより、17億円上回った。

業績予想(通期)

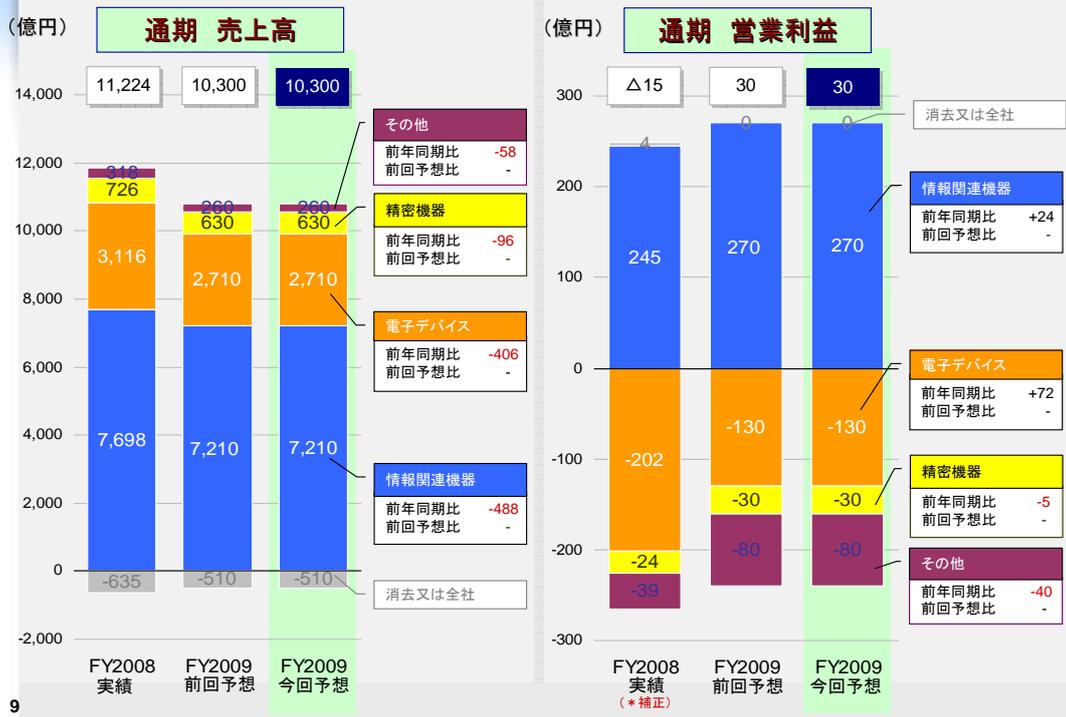


(億円)	2008年度		2009年度				増減額 増減率	
	実績	%	8/26予想	%	今回予想	%	前期 実績比	8/26 予想比
売上高	11,224	-	10,300	-	10,300	-	-924 -8.2%	-
営業利益	△15	-0.1%	30	0.3%	30	0.3%	+45 -	-
経常利益	53	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	-53 -	-
税引前利益	△895	-8.0%	△45	-0.4%	△45	-0.4%	+850 -	-
当期純利益	△1,113	-9.9%	△85	-0.8%	△85	-0.8%	+1,028 -	-
EPS	△566.92 円		△42.66 円		△42.67 円			
換 算 レ ー ト	USD	100.53 円	96.00 円		94.00 円		*今回予想:下期の為替前提 USD: 92.00円 EUR:130.00円	
	EUR	143.48 円	127.00 円		132.00 円			

8

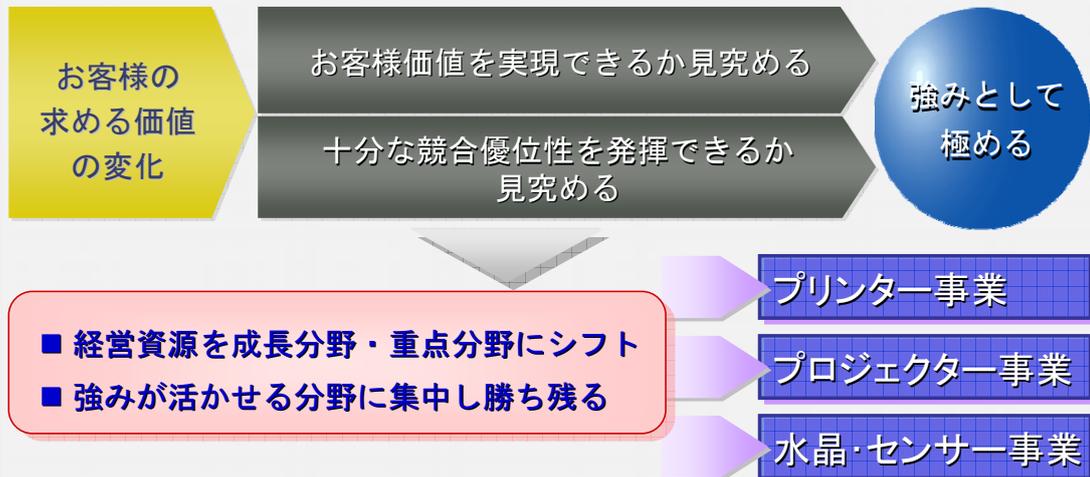
- 2009年度の業績予想について。
- 下期の為替前提を、USD 92円、ユーロ 130円に見直し、通期については、前回の業績予想を据え置き。
- 上期は、金融・資本市場における混乱も落ち着きはじめ懸案であったビジネス用途向けの市場も、地域によっては徐々に動きが出てきた。
- 第2四半期においては、為替の円安効果、デバイス構造改革や、全社を挙げた費用削減などの収益改善施策への取り組みの結果、営業利益を黒字化。
- 本格的な商戦期を迎える下期に向け、情報関連機器を中心に競争力を一層高めた新製品の販売活動も順調。
- 外部環境は、下期、特に第4四半期の景気動向による為替や市場への影響が依然として、不透明。
- 2009年度は、中期経営計画の初年度として、2010年度以降を成長軌道にのせるための重要な年。 期初計画である年間経常利益ブレークイーブンを確実に達成することを第一に、全社をあげて取り組んできている。
- 上期が前回予想を上回った現時点で、下期損益に大きな変動を及ぼす要因は認識していないが、まずは確実に今期の目標を達成する意志として、通期の業績予想は、前回予想を据え置く。

2009年度業績予想(売上高/営業利益) ▶ 事業セグメント別



- 事業セグメント別の、売上高と 営業利益の予想の内訳。
- 通期予想は、年初から据え置き。

エプソンは省・小・精の技術を究め極めて
お客様に感動していただける製品・サービスをお届けし
社会のなかで無くてはならない存在になる



10

-
- 本年3月に、2015年のありたい姿を描いた中・長期ビジョンSE15と、その達成に向けた3カ年計画である中期経営計画を策定、公表。
- エプソンは、社会やお客様にとって無くてはならない存在となることを、将来のありたい姿として定め、従来にも増して「お客様視点」を全ての行動の原点としていく。
- お客様のお求めになる価値の変化をすばやく察知し、その価値を実現できるか、そして十分な競合優位性を発揮できるかを本質に遡って見究めたうえで、エプソンの強みとして徹底的に極めていく。
- そのうえで、経営資源を成長分野・重点分野にシフトして、強みが活かせる分野に集中し、勝ち残ることを目指す。
- 中・小型液晶ディスプレイ事業や半導体事業の方向性を明確にした現在、プリンター事業、プロジェクター事業、水晶・センサー事業を、エプソンの再成長のための重点事業であると、位置付けている。

インクジェットプリンター事業 成長戦略



コンシューマー領域

新たな需要を喚起し
成長を果たす



EP-802A

E-600

エマージング領域

成長市場で
お客様価値を実現し
成長を取り込む



MEモデル

マイクロピエゾ テクノロジー

ビジネス領域

インクジェットの良さを
進化させ
既存オフィス市場で
成長を果たす



EC-01



PX-B500

商業・産業領域

次世代印刷業を
先取り変革させ
成長を実現する



ラベルプリンター



PX-20000

11

-
- 3つの重点事業領域における成長戦略を、順を追ってご説明。
- インクジェットプリンター事業について。
- 従来からご説明しているとおり、エプソンは独自のインクジェットテクノロジーである「マイクロピエゾテクノロジー」を、今後の企業成長の中核技術として位置付け。
- すでに高い評価をいただいているコンシューマー領域だけでなく、今後の市場成長が見込まれるエマージング領域に加え、ビジネス領域や商業・産業領域への応用を加速させることで、事業全体の成長を、一層確かなものにしていく。

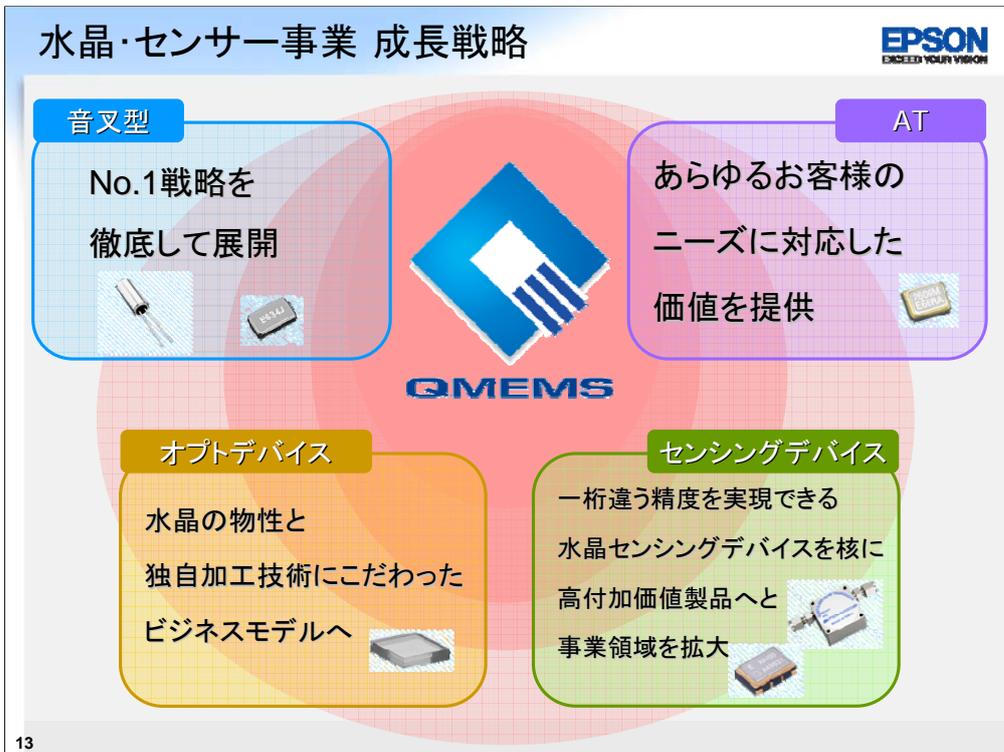
プロジェクター事業 成長戦略

EPSON
EXCEED YOUR VISION



12

- プロジェクター事業について。
- 現在、プロジェクターの市場はグローバルで500万台、向こう2年間で年10%程度の成長の見込み。
- エプソンはキーデバイスである高温ポリシリコンTFT液晶(HTPS)技術を核に、お客様に高い評価をいただいている 3LCD方式のプロジェクターを提供、2008年度のグローバルシェアは 約23%と、8年連続で NO.1の地位。
- 特に、明るさ 3000ルーメン以下のホーム、企業、学校向けの市場では、当社はトップベンダーに相応しいラインナップと商品競争力とで、競争を圧倒する強みを発揮。
- この既存事業領域では、引き続きグローバルに No.1戦略を展開。
- 一方で、高光束、常設型のサイネージ、大規模ホールなどの領域では、当社の本格的な取り組みはこれから。
- プロジェクター自身の高機能化・高性能化に加え、音響や制御などといった周辺の商品・サービスの提供から、設置・メンテナンスまで、幅広い付加価値を提供することが必要。
- その第一歩として、先日27日に、明るさ6000ルーメンと7000ルーメンで解像度が WXGAと WUXGAの新商品を発表。
- SE15の実現に向けて着実に戦略を展開、プロジェクター事業全体としての成長を確実にする。



-
- 最後に、水晶・センサー事業について。
- エプソンが有するQMEMSを核技術として、4つの領域において成長戦略を進める。
- 音叉型は、シェア60%を越える NO.1プレーヤー、今後もあらゆるアプリケーションに向け、充実したラインナップとQCDを極めた商品を提供。
- ATについては、多様化するお客様のニーズに的確に対応した価値を商品として提供、他社との差別化戦略を進める。
- オプトデバイスは、水晶ならではの 物性・特性を生かした、独自の加工技術で高い付加価値を提供できるビジネスモデルを構築し、着実に成長を果たす。
- センシングデバイスは、今後の飛躍的な成長が期待される領域。
- 水晶をベースとしたセンシングデバイスは、他の方式と比較して一桁違う精度を実現。この強みを核とし、センシングデバイス単体での地位をしっかりと築くとともに、当社が保有する半導体技術などとの融合を一層進め、高付加価値製品へと進化、事業領域の拡大と成長とを実現。
- 以上、3つの重点事業領域における戦略は、既に実績の上がっているものと、まだ収益に貢献する手前のものとが混在。
- 目指すべき経営戦略の方向と、その施策は、SE15および中期経営計画で明確化。

1. 概要ご説明

2. 詳細ご説明

1) 2009年度 中間決算

2) 2009年度 業績予想

決算ハイライト(中間決算)

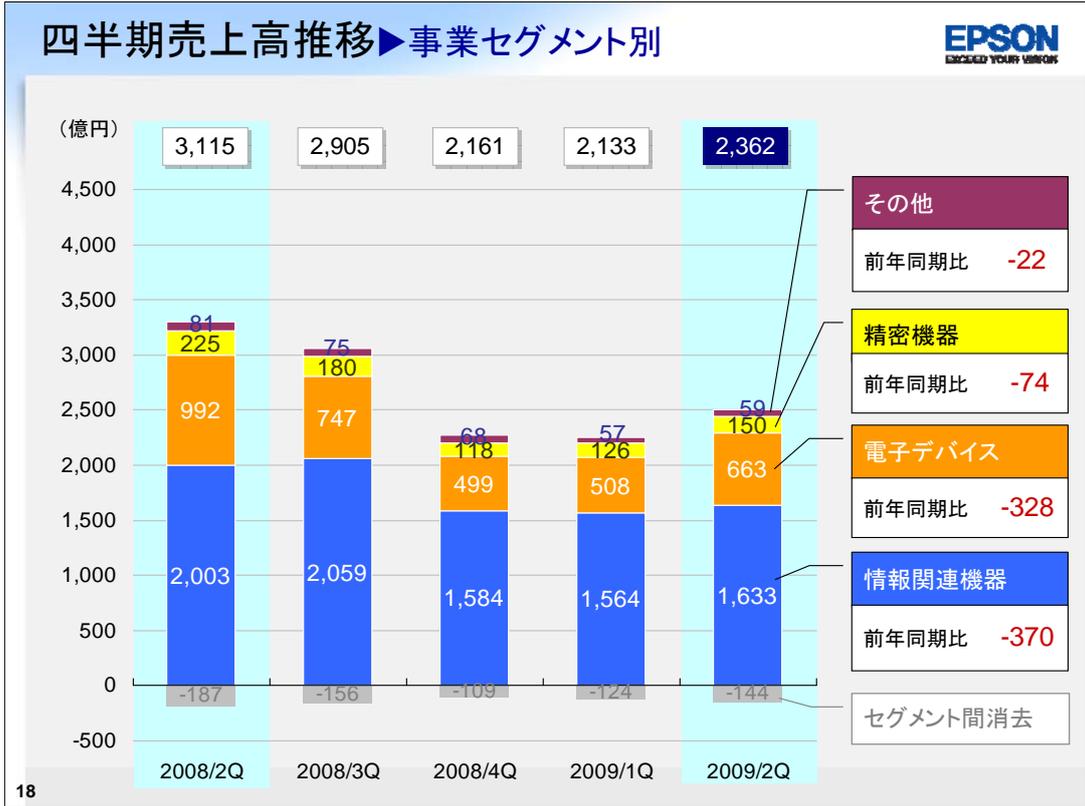


(億円)	2008年度		2009年度				増減額 増減率	
	実績	%	8/26予想	%	実績	%	前年 同期比	8/26 予想比
売上高	6,157	-	4,690	-	4,496	-	-1,661 -27.0%	-193 -4.1%
営業利益	280	4.6%	△180	-3.8%	△93	-2.1%	-373 -	+86 -
経常利益	274	4.5%	△190	-4.1%	△144	-3.2%	-419 -	+45 -
税引前利益	204	3.3%	△235	-5.0%	△203	-4.5%	-408 -	+31 -
純利益	117	1.9%	△255	-5.4%	△291	-6.5%	-409 -	-36 -
EPS	59.69 円		△128.36 円		△146.92 円			
換算 レート	USD	106.11 円	96.00 円		95.49 円			
	EUR	162.68 円	129.00 円		133.15 円			

決算ハイライト(第2四半期決算)▶前年同期比

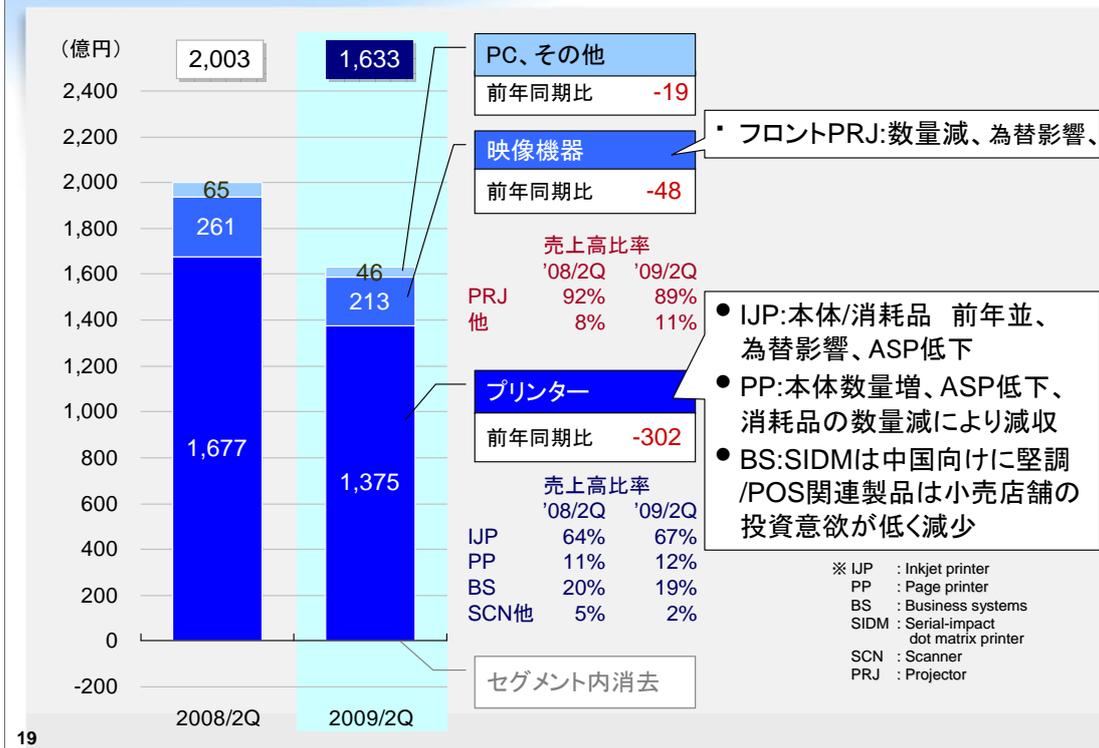


(億円)	2008年度		2009年度		増減	
	2Q実績	%	2Q実績	%	増減額	増減率
売上高	3,115	-	2,362	-	-752	-24.2%
営業利益	56	1.8%	31	1.3%	-24	-44.3%
経常利益	55	1.8%	6	0.3%	-48	-88.6%
税引前利益	47	1.5%	△35	-1.5%	-83	-
四半期純利益	14	0.5%	△68	-2.9%	-82	-
EPS	7.23 円		△34.14 円			
換算 レート	USD	107.66円	93.65円			
	EUR	161.93円	133.73円			



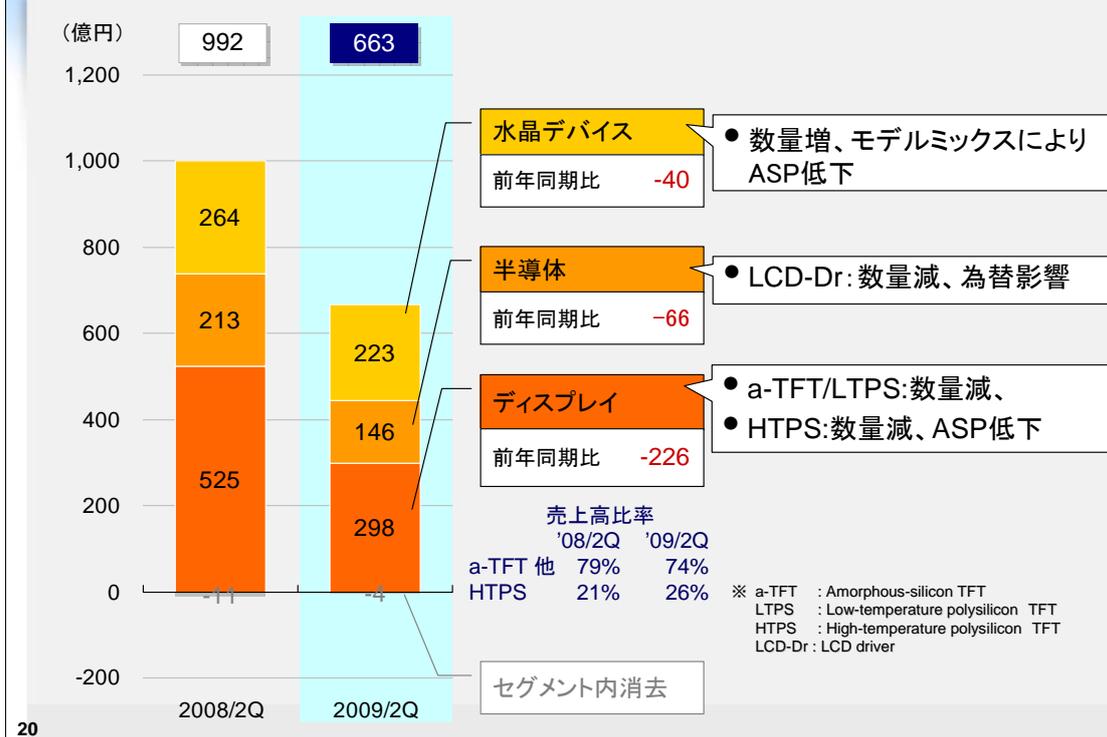
-
- 事業セグメント別の 四半期 売上高推移。
- 情報関連機器は、前年同期比 370億円の 減収、
電子デバイスは、前年同期比 328億円の 減収、
精密機器は、前年同期比 74億円の 減収。

四半期売上高比較▶情報関連機器セグメント



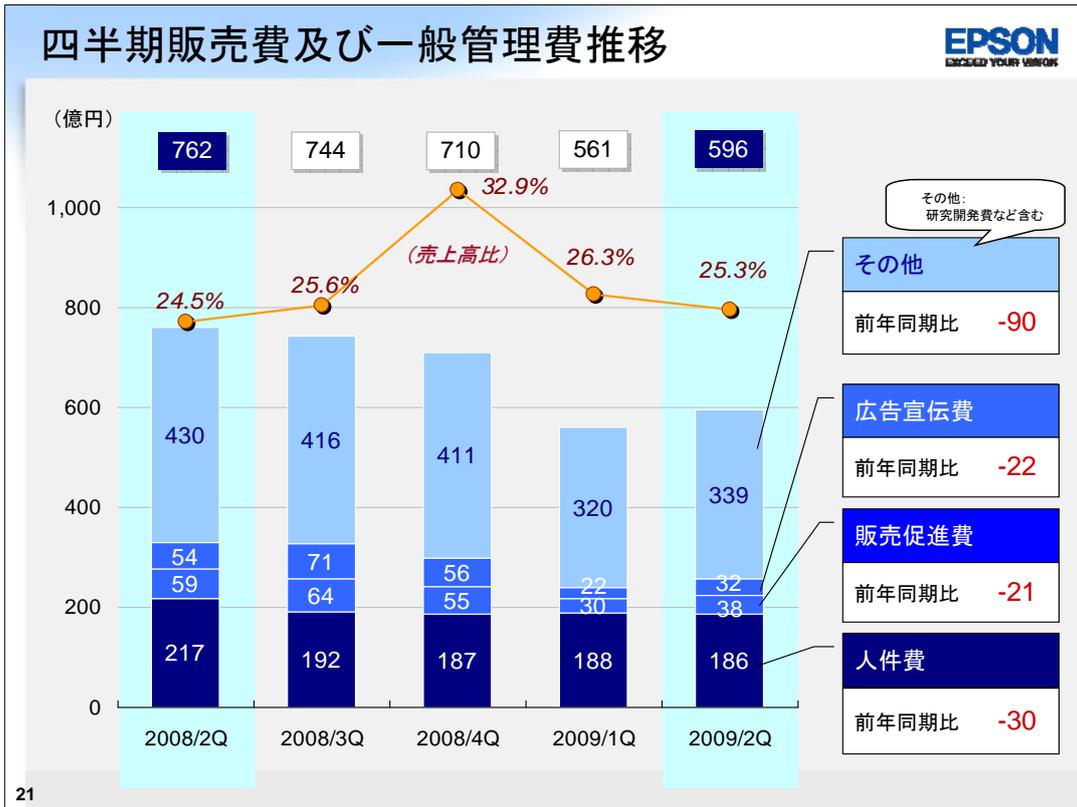
- ▶ 情報関連機器事業セグメントの第2四半期売上高について、事業別に前年同期と比較。
- ▶ プリンター事業は、前年同期比 302億円の減収。
- ▶ インクジェットプリンターは、ビジネス向けは数量減となる中、本体、消耗品ともに前年並みの数量、円高による為替の影響、ASPの低下、前年同期を下回った。
- ▶ 本体の地域別状況は、各地域の市場が前年割れとなる中、欧州、日本は 前年に比べ数量減、アメリカ、アジアは 数量増。
- ▶ ページプリンターは、入札案件獲得など、拡販への積極的に取り組み、本体は 日本、アジア市場においては数量増、ASP低下、消耗品が数量減、および為替の影響により減収。
- ▶ ビジネスシステムは、中国市場向けにローエンドのSIDMの数量は堅調、欧米の小売店舗における投資意欲が低かったことによるPOS関連製品の減少と、為替影響などで減収。
- ▶ 映像機器は、景気低迷が続く欧州と 教育市場が回復途上にある米州で数量減、および為替の影響により減収。
- ▶ 前回予想との比較について。
- ▶ インクジェットプリンターは、本体は、欧州において数量未達により計画を下回った。消耗品が 計画を上回ったことで、インクジェットプリンター総額では、ほぼ計画どおり。
- ▶ ページプリンターは、欧州市場での数量減により計画未達。
- ▶ ビジネスシステムは、POS関連製品が景気後退による影響を受け数量は下回った。SIDMが中国・シンガポール圏を中心に数量増により、ほぼ予想どおり。
- ▶ 映像機器は、北米や中国アジアなどで市場は徐々に回復、東欧を中心に欧州の市場回復に遅れ、数量未達により計画未達。

四半期売上高比較▶電子デバイスセグメント



▶ 電子デバイス事業セグメントの 前年同期比較について。

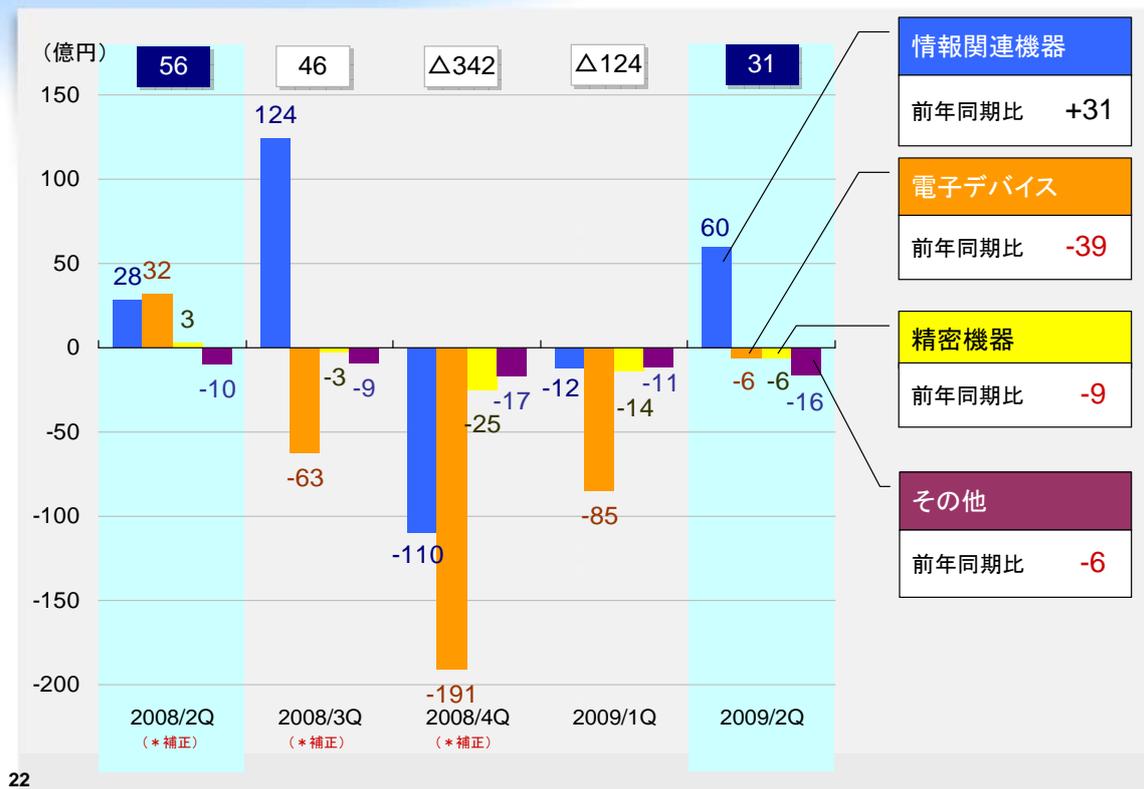
- ▶ ディスプレイ事業は、前年同期比 226億円の減収。
- ▶ モバイル用の中・小型液晶ディスプレイについて、カラーSTNとMD-TFDが終結となったこと、携帯電話向けを中心に好調に推移した昨年度の市場環境と比較すると、第1四半期に引き続き、景気後退の影響を受けた。
- ▶ アモルファスTFTとLTPSは、スマートフォン向けは数量増となったが、携帯電話向け、デジタルカメラ向け数量減により、減収。
- ▶ プロジェクター向けのHTPSは、数量減とASP低下で減収。
- ▶ 前回予想との比較では、モバイル用の中・小型液晶ディスプレイは数量増、モデルミックスによるASP低下で未達。
- ▶ プロジェクター用のHTPSは、ほぼ計画通り。
- ▶ 水晶デバイスは、前年同期と比較では、市場拡大している センシングデバイスを中心に数量増となったが、円高による為替の影響 モデルミックスによるASP低下などで減収。
- ▶ 前回予想との比較では、数量増により、上回った。
- ▶ 半導体は、車載や携帯向けドライバーを中心に数量減、円高による為替の影響で減収。
- ▶ 前回予想との比較では、LCDコントローラー、シリコンファブリーなどの数量増により、予想を上回った。



- 販売費及び一般管理費の四半期推移について。
- 前年同期との比較、研究開発費や、販売促進費、広告宣伝費を中心に削減を進めたことにより、165億円の減少。

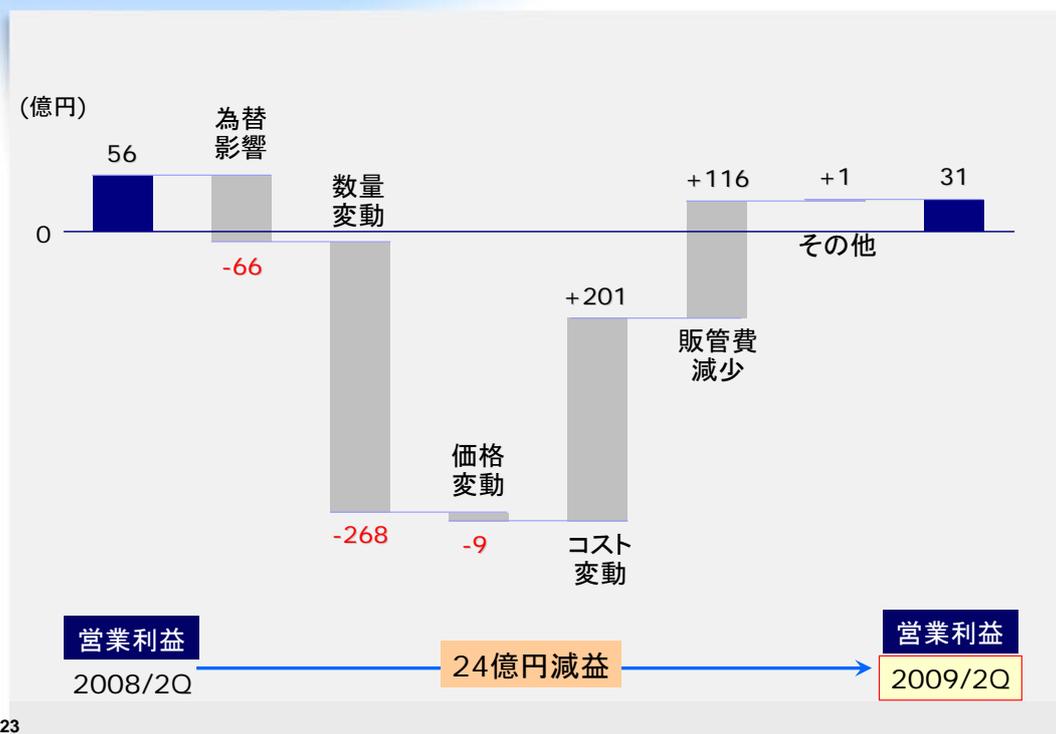
四半期営業利益推移▶事業セグメント別

EPSON
EXCEED YOUR VISION



- ▶ 事業セグメント別の営業利益推移。
- ▶ 情報関連機器は、前年同期比 31億円増益の 60億円の営業利益。
- ▶ インクジェットプリンターは、減収だが、本体のプラットフォーム共通化によるコストダウン、事業全般における費用の効率化を徹底的に推進したことにより、増益。
- ▶ ビジネス用途向けを中心とした事業は、減収となる中、ページプリンターは、固定費削減により前年並み利益、ビジネスシステム、およびプロジェクターは減益。
- ▶ 電子デバイスは、前年同期と比べ39億円の減益、ブレークイーブンまでもう一步の 6億円の損失。
- ▶ 前年度に事業構造改善費用と減損損失を計上したことともなう減価償却費減や、拠点の統合効果による固定費削減などを進めたが、為替の円高効果や、景気回復途上で、受注にまだ力強さが戻ってきていないため、減収、減益。
- ▶ 前回予想との比較について。
- ▶ 情報関連機器セグメント、および電子デバイスセグメント とともに予想を上回った。
- ▶ 情報関連機器について、プリンター事業は、市場回復の遅れで、採算性の高い ビジネス向け売上高が予想を下回った影響を受けたが、消耗品が計画を上回ったこと、固定費削減、為替の円安効果により利益は予想を上回った。
- ▶ ビジネスシステム、ページプリンターは、ほぼ予想どおり。
- ▶ 映像機器事業は、売上高が予想を下回ったことにより、利益も予想を下回った。
- ▶ 電子デバイスについて、ディスプレイ事業は売上高が予想を下回ったが、部材のコストダウン、固定費削減への取り組み、為替の効果により予想を上回った。
- ▶ 水晶事業は、ASP低下の影響を、コストダウンなどで吸収できず前回予想を下回った。
- ▶ 半導体事業は、想定以上の稼働率向上で、予想を上回った。

営業利益増減要因分析



- 営業利益の前年同期比での減益額 24億円の要因を分解。
- 2008年度 第2四半期の営業利益 56億円に対し、コスト変動、販管費減少の増益要因があったが数量変動や 円高による為替影響の減益要因により、当四半期営業利益は 31億円。

貸借対照表主要項目推移



24

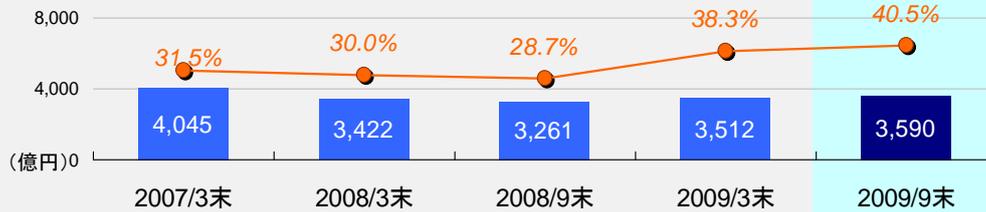


- 貸借対照表の主要科目について。
- 総資産は、売上高減少にともなう たな卸資産の減少や現金および預金、ならびに 有価証券などの流動資産の減少により、2009年3月末に比べて、297億円減少。

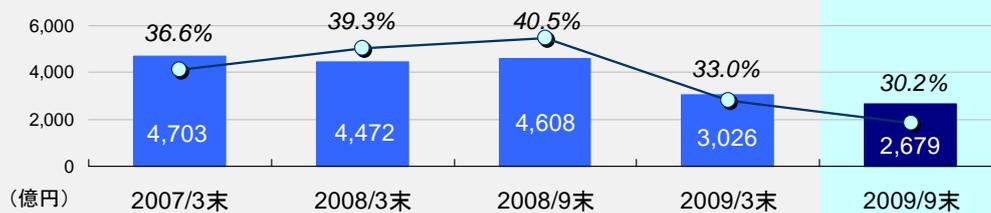
貸借対照表主要項目推移



有利子負債・有利子負債依存度



自己資本・自己資本比率



*有利子負債=2008年度からリース負債を含む
*自己資本=純資産合計-少数株主持分

25



- 有利子負債は、2009年3月末に比べて、78億円増加。
総資産の有利子負債依存度は40.5%。
ネット有利子負債は、1,012億円。
- 自己資本は347億円減少し、自己資本比率は30.2%。

1) 2009年度 中間決算

2) 2009年度 業績予想

業績予想(通期)



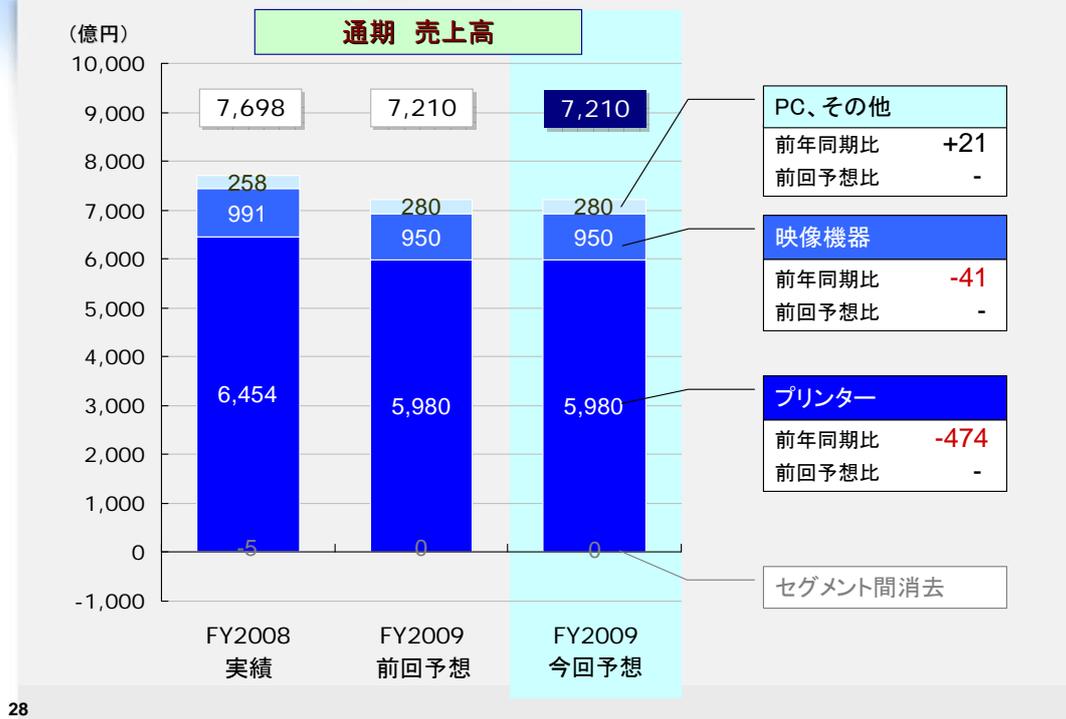
(億円)	2008年度		2009年度				増減額 増減率	
	実績	%	8/26予想	%	今回予想	%	前期 実績比	8/26 予想比
売上高	11,224	-	10,300	-	10,300	-	-924 -8.2%	-
営業利益	△15	-0.1%	30	0.3%	30	0.3%	+45 -	-
経常利益	53	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	-53 -	-
税引前利益	△895	-8.0%	△45	-0.4%	△45	-0.4%	+850 -	-
当期純利益	△1,113	-9.9%	△85	-0.8%	△85	-0.8%	+1,028 -	-
EPS	△566.92 円		△42.66 円		△42.67 円			
換 算 レ ー ト	USD	100.53 円	96.00 円		94.00 円		*今回予想:下期の為替前提 USD: 92.00円 EUR:130.00円	
	EUR	143.48 円	127.00 円		132.00 円			

27



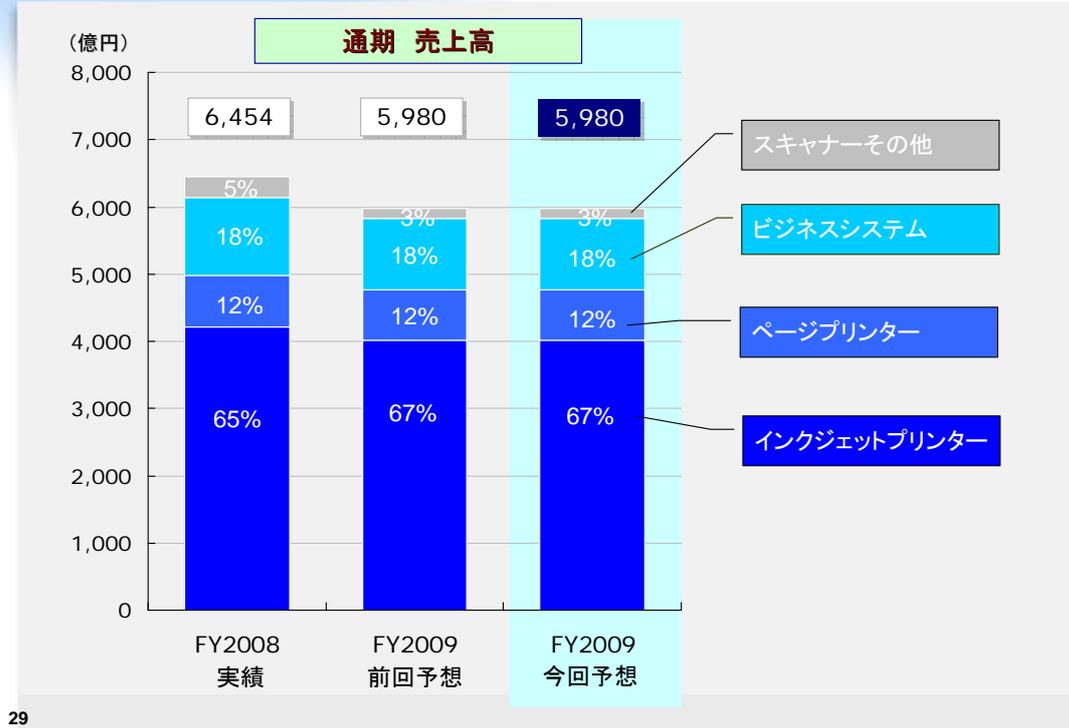
- 2009年度の予想について。
- 下期の為替前提をUSD92円、ユーロ130円に見直し、通期の業績数値は、前回予想を据え置き。

事業別売上高予想▶情報関連機器セグメント



- ▶ 情報関連機器セグメントの事業部門別売上高の内訳について。通期の予想を据え置き。

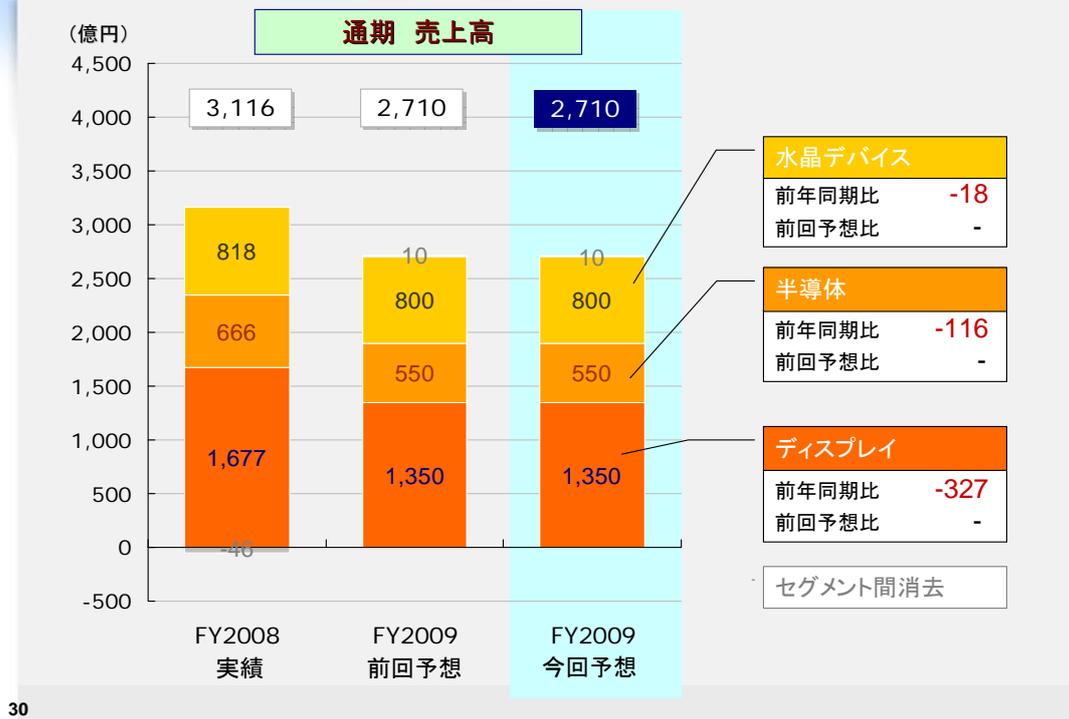
事業別売上高予想▶プリンター事業



▶ プリンター事業について。

- ▶ 引き続き競争力の高い製品の投入と、徹底したコスト削減に取り組む。
- ▶ インクジェットプリンター事業において、成長市場である、エマージングや、成長領域である商業・産業分野への取り組みを強化、中長期的には売上と利益を拡大・創出できる体制を整えていく。

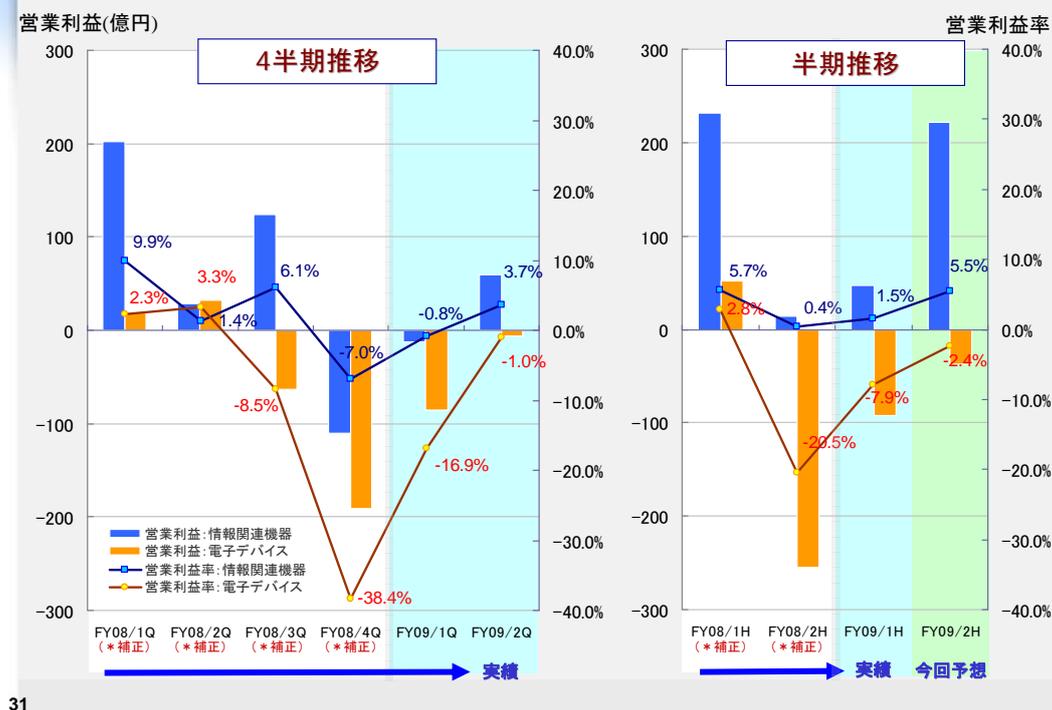
事業別売上高予想▶電子デバイスセグメント



- 電子デバイスセグメントの事業部門別売上高の内訳について。
通期の予想を据え置き。
- 中・小型液晶ディスプレイについては、6月30日にソニー株式会社と締結した契約にのっとり準備を進めていく。

営業利益の推移

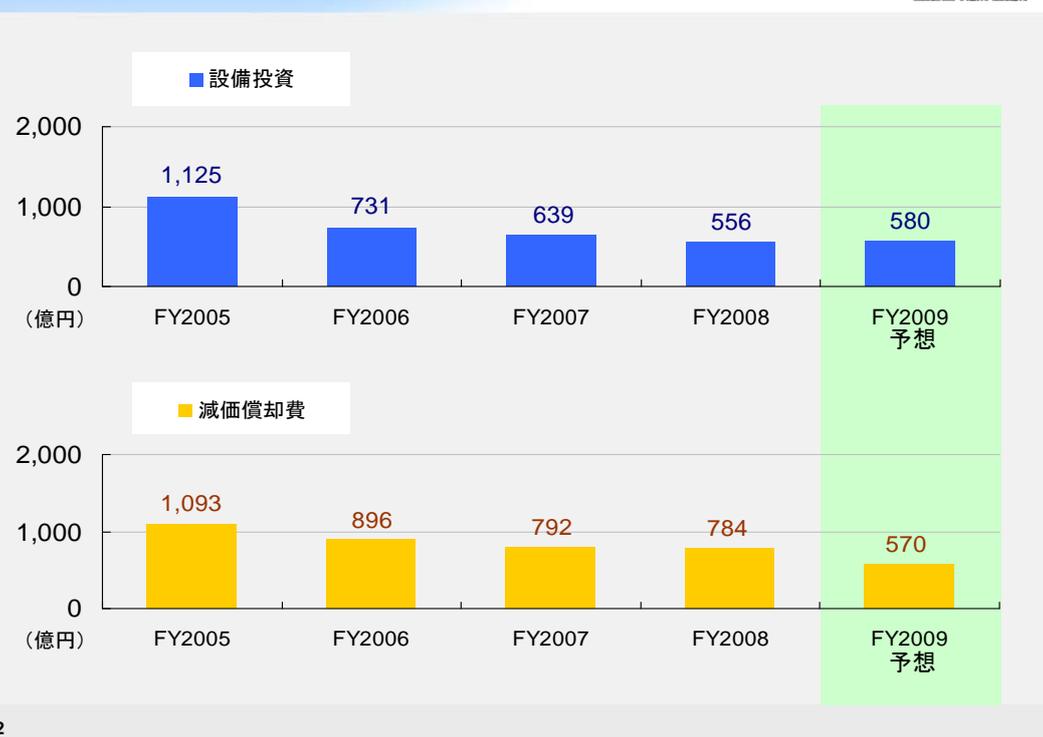
EPSON
EXCEED YOUR VISION



31

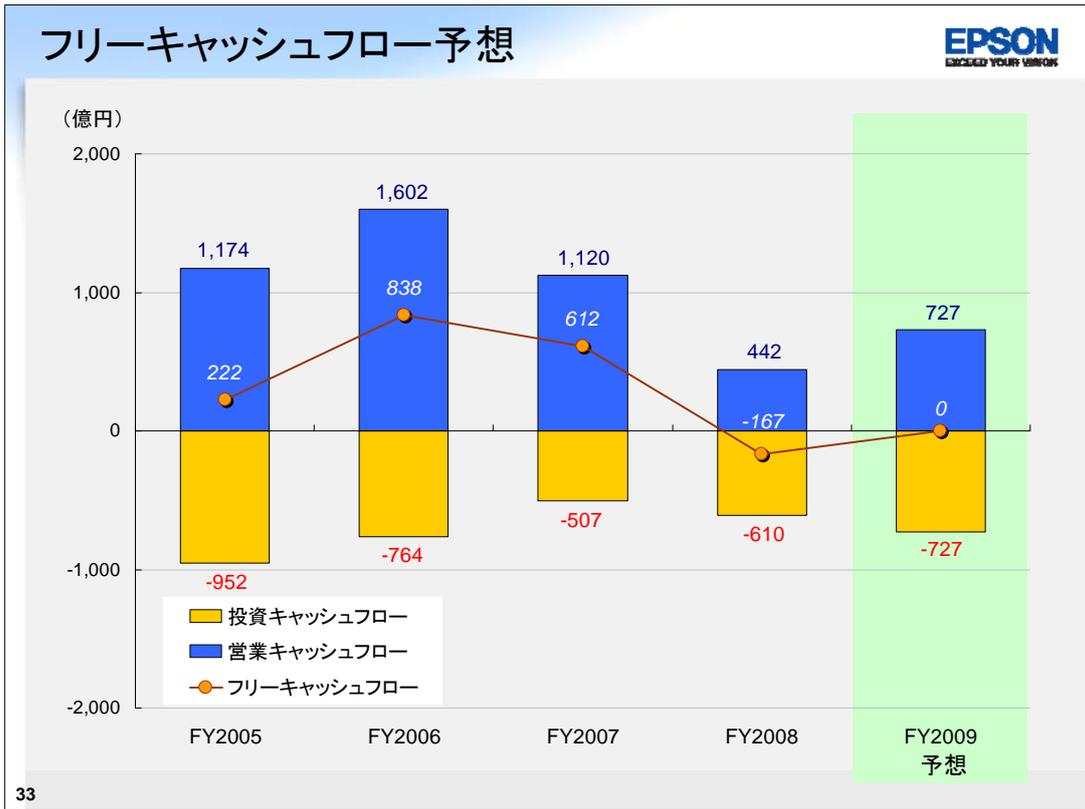
- 通期のセグメント別の営業利益も、予想を据え置き。
- このスライドは、情報関連機器セグメントと電子デバイスセグメントの営業利益の推移を並べたもの。
- 左のグラフは、2009年度 第2四半期までの 四半期別 損益の推移を、右のグラフは、今回予想までの、半期別 損益の推移を表したもの。
- 情報関連機器、電子デバイスともに、昨年の下期から景気後退の影響を継続して受けてきたが、電子デバイスの構造改革、全社を挙げた固定費削減や、コストを含めた製品の競争力強化への取り組みにより、収益性は改善の方向。
- 下期は景気動向などの為替や市場への影響が、依然として不透明。
- 年度の中で、最も大きな商戦期となる年末に向け、業績の改善を果たせるように、足元の施策に着実に取り組む。

設備投資・減価償却費予想



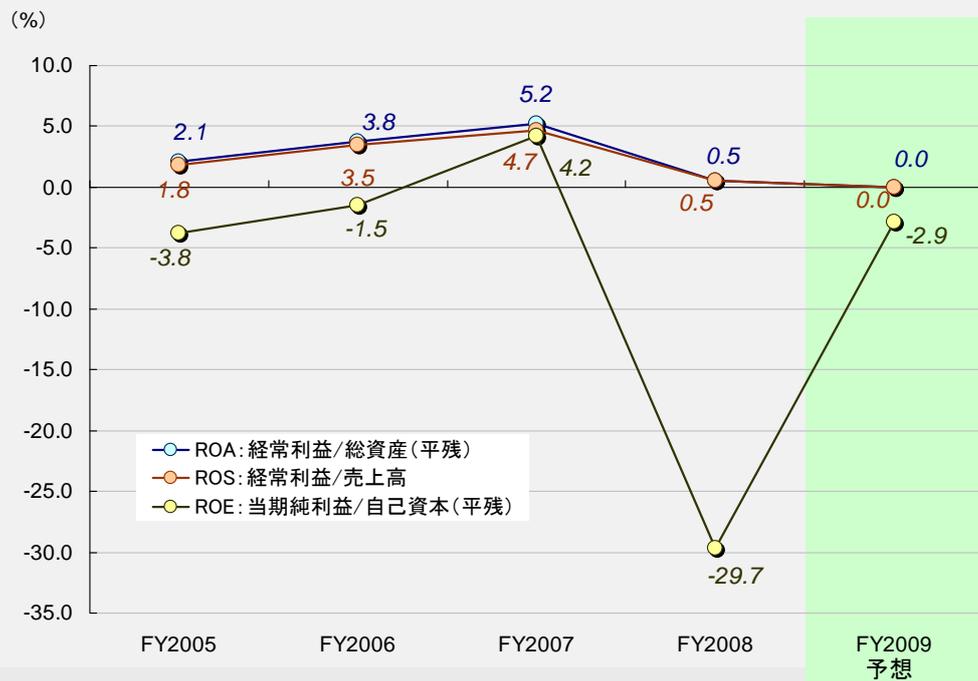
32

- 設備投資と減価償却費の予想は、変更なし。



-
- キャッシュフローの予想についても、変更なし。

主な経営指標の推移



34



- 主な経営指標は、
ROS および ROAは 0%、
ROEは マイナス 2.9%。

- 以上

EPSON
EXCEED YOUR VISION